

治二十八年池田病院に就職、同三十六年獨立して本町にて開業し今日に及ぶ。嘗て大阪府檢疫委員に囑託されて令名あり。現在北豊島村々醫及び同校醫、秦野村々醫及び同校醫、郡立農商學校々醫等を囑託されて信望頗る敦し。資性溫厚にして謹嚴、町杏林界に於いて長老格を以て稱せられる。

森醫院

婦人科専門にして



森源之助氏

べし。

門學校出身にして後大阪柳病院に就職し斯道の研鑽を遂げて造詣淺からず。性溫良篤實、該博なる學識と敦厚なる經驗を以て患者に臨めるが故に診療の懇切なる深き患者の信望を以て迎へられ、特に氏が貧困者に對して同情ある態度を以て患者に接せる事は兎角患者の質に依りて言動を上下する通弊ある斯界に於いて稱揚すべき一大美德たるを失はず。其の家連日に月に益々隆盛に赴けるも故ありとす

奥山醫院

院長奥山義次郎氏は大阪慈惠病院醫學校出身にして卒業後三年間地方に於いて開業し中途志す處あり、東上して長與胃腸病院に入り研鑽琢磨、深く造詣を積んで明治三十六年十一月胃腸科を専門に現在の場所に於いて開業す。同四十年地有方志の懇望により兵庫縣中谷村紫谷に分院を設置し、現今にては岡山醫專出身鳥越靜夫氏を分院主任とし院長と交代診療に

従事す。院長の性溫厚、而して篤實、地方杏林界の爲めに貢獻する處淺からず、閭中の民生何れも氏の德を稱せざるなし。

福田醫院

大正五年十二月



福田勝助氏

五月七日兵庫縣川邊郡多田村に生れ、大正元年愛知醫專專門學校を卒業せる新進の醫學士なり。卒業後獨立開業する迄には母校に於いて小兒科を専攻し其の蘊奥を究めたり。稟性廉直誠實、頭腦明敏にして識才に富み、尤も推理的知能は氏の先天的天授なりと云ふも決して過賞にあらず。信望高噴たり。

岩西眼科院

院長岩西利恒氏は眼科専門の醫學士にして本院を大

阪市西區堀江隆平橋南詰に有し、分院を本町西之口に置く。當地方眼科醫の權威者にして卓拔なる技術と技識の秀逸を以て知られ獨逸製義眼裝填の如きは氏の妙技の右に出づるものなしと傳へらる。

淡河醫院

院長淡河義一氏は明治四十四年大阪醫科大學出身の醫學士にて楠本内科函館病院小兒科、傳染病研究所、東京大學小兒科等にて研學し、大正五年小兒科専門を以て柳屋町に開業す。新進の刀圭家にして曩に林口町青樓峰むら家の家屋を買収したるを以て近く同家に移轉し業務の擴張を爲す豫定なり。

河野齒科醫院 室町に在り。院長河野良吉氏は當地齒科醫界の新進の士として信望、令聞共に敦し。資性溫良にして敦厚、克く人に接して懇切を竭す。時に談論風發、杏林界の弊竇を痛嘆措かざるが如きは徐ろに人をして敬服措く能はざらしむるものあり。氏技術として金齒充填、抜齒に精妙を極め患者のみならず斯界の先輩をして驚嘆せしむ。

池田齒科醫院 本町に在り。敢て當地のみならず大阪府下の齒科醫院としても最も古き經歷を有し、一面齒科醫徒弟の養成所として常に後輩者の出入頻繁なるを見る。院長小島虎之助氏は九州佐賀縣の産、今日の地位を贏ち得る迄には成功立志美譚中の人としても推賞し得べきものあり、刻苦經具さに盤雪の功を積める處は後輩子弟の爲めに龜鑑とするに足る。創業日既に北攝事業界に雄飛する處あらん事を期しつゝあり。

大正齒科醫院 本院は田中町にあり、義齒、金冠、繼續齒、加工齒等を専門とし大阪方面の患者頗る多し。院長植田貞太郎氏は世俗に謂ふ如才のなき新進の社交家にして信望また敦し。蘊蓄淺からざる學究的人としても既に一家を爲し風丰清楚、意氣活達、尙ほ春秋に富める前途ある人材なり。

尚齒堂齒科醫院 本町に於ける古き開業者にして閩中の信望頗る敦し。院長神田能之氏は弱氣満々たるが如きに似ず其實性は溫良にして人と爭ふ事を好まず。然れども時に縱横の論議を

試むるや古端風生の慨あり、事に臨んでは稟乎として犯すべからず、熱烈の氣に富みて任侠の風あり。氏また文學を愛好し就中俳句の造詣淺からず、閑餘書を手にして寧日なきものゝ如し本町に居を構ゆ。

攝池齒科醫院

宮之下に在り。院長吉村透氏は熊本縣下の生れ、滔々時弊に陷れる現今の醫界に於いて、毅然眞男子の骨頭を有し萬綠叢中紅一點の觀ある氣骨

の士たり。卒直飾りなき側面に於いては頗る聲利に淡にして勤勉眞村塾、富貴貧賤の別なく社交亦極めて平民主義を以て知らる。多年東遷都に遊學し才識淺からず、當地齒科醫界に於いて著聞の名聲を博す



氏 **金戸鍼灸院** 本町(めん茂樓裏通り)に在り。院長金戸島太氏は不幸にして盲目の身なるも、マッサージ治療、鍼灸技術共に當地斯界

の第一人者を以て許され殊に斯學の蘊奥を究めたる事は、嘗て大阪盲啞學校に教鞭を執りたる事あるに徴しても明かなるべし。自宅には常に點字にて成れる書籍を置き業餘の閑日に愛讀し

修養研讀を怠らざる斯界稀に見る學究の人たり。

藤井鍼灸院 南新町に在り、マッサージ治療に従事す。院長藤井正一氏は鳥取縣東伯郡東郷村池田新太郎光政の家老職の家に生れ一家衰運に傾くや種々業を轉するも面白からず、十年前當地に移住し斯業を始め。大正三年十二月、同四年三月、六月の三回に執行されたる鍼灸術學

説試験等には何れも其の都度第一位の成績を以つて合格せり。今日同院が日々治療を乞ふ患者の増加せるは全く其の修得したる技術と學理の應用の結果と謂ひつべし。
 兒島助産婦 本町に居を構え産婆に従事す。助産婦兒島ツル子は當地斯界に於て重きを爲し其の産婦に臨むや親切懇篤を極め、常に新學術を應用し萬遺漏なき事を期して餘蘊なし。其の産家の信頼厚く令聞治さる故ありとすべし。



石田鍼灸院 一般鍼灸術を業とし院主は石田與藏氏なり。大正八年斯業者を以て信義會を組織するや氏は卒先して之が幹旋に努め遂に推されて其の會長と爲り石田同會事務所を同氏方に置きて毎年一回實地研究會を開く。當地斯界の重鎮として技術卓秀 資性また溫厚にして令聞夙に高し。田中町氏 信義會 大正八年十一月時の池田警察署勤務治警部補の熱心なる

月二十五日午後一時より同會事務所なる田中町石田與藏氏方に於いて實地研究會を開催し斯道の研讀琢磨を怠らず。現在の役員及び會員氏名左の如し。

會長石田與藏、准副會長金戸島太、幹事兼會計藤井正一、理事加茂拾吉、評議員今北平吉、同安田テツ、同澤田治三郎、(以下會員)東ヤス、中上清四郎、小川伊太郎、森幾太郎、岡伊三郎、筒井島之助、野垣伊太郎、辻田源吉、阪上コト、三

宅徳家、松木イト子、山崎浦五郎、門脇モト、田中トメ、中島清、生黒ヨシ、橋本八木三、山本源次郎、片岡如來寺、乾石松、山口某、川西三治郎、寛コイト、雜賀トヨ、門谷專太郎、辻田ハル、伊藤福松、加茂ナチ、

第七章 交通、土木

池田町の基本道路としては府道大阪池田線、池田龜岡線、稗田野池田線、福住池田線等あり、各路線は何れも本町を中心として郡の南北に縦貫し南は大阪方面、北は京都府南桑田郡龜岡町並に兵庫縣多紀郡福住村方面に至る。町道は五十六線にして延長十里二十二町二十九間、池田川に架すに府縣共同負擔の吳服橋(四十二間)及び私設中橋あり。道路を主とする本町の土木事業は漸次修理を根本目的に相當費用を投じて努めつゝあるも從來非常に荒廢し居れるを以て未だ容易に所期の目的を達するを得ず、然れども本年道路法實施と相俟つて着々改善の計畫を樹て既に近く着手せんとしつゝあれば近き將來に於いては面目を一新するに至るべし。更に交通機關としては阪神急行電鐵を始め町より西方十八丁川邊郡川西村寺畑に鐵道省福知山線あり、池田自動車株式會社は當地の目貫場所本町に營業所を置き自動車四臺を以て日々數回池田、大阪間の貨物運輸に従事す、今阪神急行電鐵池田停留場に於ける乗降人員及び貨物發着の數字を掲げて當地交通運輸の動靜二班を窺ふ事とすべし。

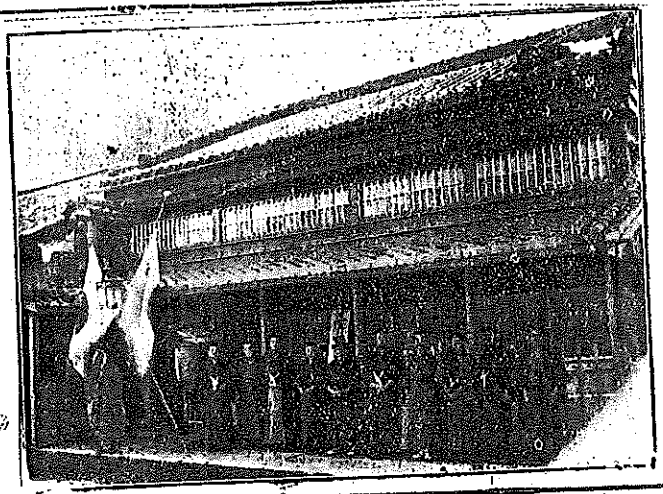
不偏不黨 直言直筆 筆劍の精練
 論議の正鵠 報道の迅速を以て生命とする

東陽新聞

毎月八回
 四日発行
 定一ヶ月
 價金貳拾錢

山椒は少なくてヒリ、と辛い
 新聞は少なくて活殺自在

發行所 大阪府下池田 室町九番町 東陽新聞社



資本金五拾萬圓

株式會社 池田實業銀行

池田南新町
 電話池田四四八番

支店 伊丹、箕面
 出張所 寶塚町

取締役	清瀧德兵衛	取締役	上山 仙松
社長	福井熊三郎	取締役	北村伊三郎
取締役	下岡 龜一	監査役	澤田太兵衛
取締役	今里 俊雄	監査役	澤田 與市
取締役	西田庫之助	監査役	川上 幾近
取締役	勝弘幾太郎		

◎卓絶せる品質!!

記念状

一樽油 壹瓶

古く實業獎勵の意多し依

兩陛下御用品、宮内省御用品

相次候様貴下名譽に存候

紀念、爲、此状を呈候也

明治四十年二月十日

第四回全國大品評會

會次長官勳章 勳章受給

村津惣平殿

◆うまい味!!! よい香!!!

池田西之口四ツ辻南

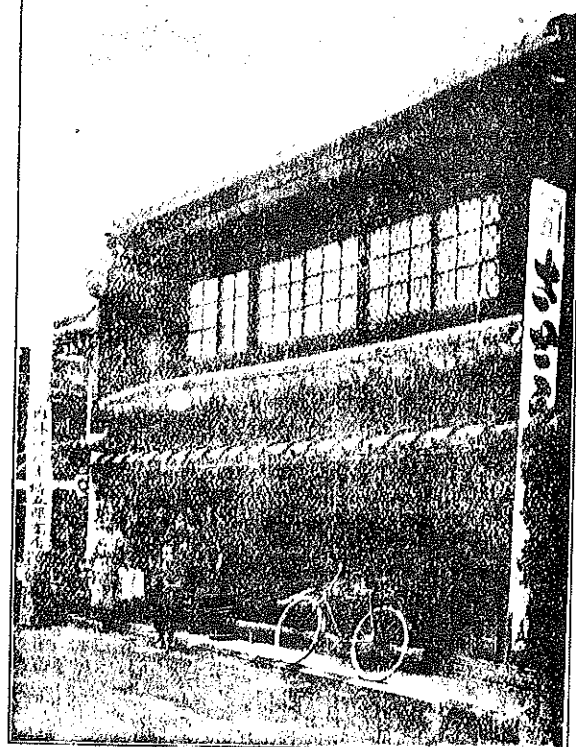
村津醸造元販賣所

卸 小 賣
全
野原醬油店

醸造元 播州二見港

◆壺詰特製一升、四合ノ二種

◎噴々たる好評!!



日本力森灘 化學永萬 學製食 製ユ料 菓ム菓 株キ株 式ヤ式 會ラ會 社ル社 北メ北 北メ北 特約特 約約約 店店店

内 外 砂 糖 商

樽五郎商店

池田本町

たるが、唯一般町民の飲料水に於いては依然舊態を保持し飲料不適の個所及び盛夏の候渇水等の遺憾事尠ならずを以て將來上水道を敷設すべく目下町當局に於いて鋭意企劃中に属す。
公設消防組 蒸汽唧筒一臺を有し其の他器具等よく整備せり。組頭寺林卯之松氏を始め杉本拾吉 松村拾吉、大島庄太郎三小頭の外三十二名の消防手あり。

第九章 諸官衙

豊能郡役所 上池田に在り。現在廳舎は明治二十七年の新築に係り左記二十三箇町村（面積十四方里餘）を管轄す。

町村名	現住戸數	現住人口	町村名	現住戸數	現住人口
止々呂美村	一四二	六、五四	細河村	五、八四	二、八六
秦野村	一四二	一六、四〇	箕面村	一、〇六	四、五九
北豊島村	四八六	二、四八	麻田村	三、九	二、〇六
豊中村	一、三二	六、二八	熊野田村	三、八	一、四六
南豊島村	八三	三、五一	庄内村	七、五	三、六九
豊津村	五二	二、七〇	吉川村	二、八	五、八
			池田町	二、三六	一〇、三三
			萱野村	五、四	二、五三
			櫻井谷村	三、三	一、八七
			中豊島村	三、三	一、八七
			小曾根村	五、三	二、四七
			東能勢村	四、八	二、〇九

東郷村	四七	二、五一	歌垣村	三五	一、三六	田尻村	一五	八、〇〇
西郷村	四〇〇	一、六六	枳根莊村	七七	三、〇八	計	三、三二	一四、四〇

元來本郡は郡制實施に當り豊島、能勢の二郡を廢し新設せしものなり。口碑に傳ふ、豊島郡は上古は島上、島下を一區にして三島と呼びしが、中頃島上、島下を分裂するに及び外島と稱へ後豊島と改めたり。能勢郡は古來より分合なし管轄を釋ぬれば舊能勢郡は文治二年より能勢氏其の半を領し、其餘は郷土所々を分轄し織田氏に至り之れを塩川伯耆守の代官役知となし。豊臣氏の時島津義弘七村を領し慶長五年能勢氏戰功を以て廿八村を領せしが、徳川氏は之れを收め旗下となし爾來代官支配城代役旗下の采地となり以て維新に至れり。舊豊島郡は天正以前池田氏、荒木氏之れを領し天正十三年豊臣氏は青木重直を麻田村に封じて十六箇村を領せしめたり。徳川氏以後は一様ならざりし事能勢郡に同じ。維新以後兵庫縣の管轄となり後大阪府に屬せり。地勢狹長にして東は三島郡に隣し、西は池田川中央を以て兵庫縣川邊郡と界し、南は神崎川を隔て、西成郡に對し、北は山嶽を以て京都府桑田郡と相接せり。北方は山嶽連亘し南方は土地概ね平坦にして田畦遠く連れり。府道高槻伊丹線、吹田伊丹線は三島郡より入り郡を横斷して兵庫 川邊郡に通じ、又同大阪池田線、池田龜岡線、稗田野池田線、福住池田線の各路線は池田町を中心として縦貫して南大阪方面、北京都府龜岡並に兵庫縣福住方面に通ぜり。箕面、千里、天竺、久安寺其の他の諸川は源を悉く東北方の山溪より發して其の流末は池田、

神崎の二川に注ぎ、郡の極南に於いて相合し一川となり其の末更に數派に分れて海に注ぐ。而して現在郡有財産は銀行預金三千九百二圓餘にして大正九年度郡費は左の如し。

歳入	歳出	歳入	歳出
財産収入	二、二五五	使用料及手数料	三、六九一
繰越金	五〇〇	町村分賦額	五、五三一
會議費	一、二〇八	土木費	一、三、四六九
吏員費	一〇、二五五	臨時費	二、六二九
郡報費	一〇〇	諸補助費	四、八三五
其他	五七	計	五、三三〇
		自治獎勵費	七〇〇
		勸業費	一、八四四
		計	九、三三〇
		雜收入	一、三三三
		財產積立	五、八
		神社費	三、五八
		計	九、三三三

尙ほ現在吏員は郡喜長田龜太郎氏を始め左記の十四氏なり

郡長喜田龜太郎 郡書記古田誠、山田逸郎、村田實、平井利市、植田勝治、中澤安次、土田捨太郎、山田正美、岸西善一、郡視學山口誠一、産業技手溝端眞治、道路技手石崎政次郎、倉庫主任森田傳次。

池田警察署 元來大阪府警察事務は慶應四年薩長藝の三藩により組織せられたる浪花隊を以て濫觴とし、明治三年八月浪花隊の解散と同時に警察制度の胚胎するに至れり。明治七年警保寮を内務省に移し各府縣の警察を指揮監督し司法警察規則制定せらるゝや當府に於いても警察係を設けられ其の年五月池田町三千二百九十五番に警察出張所を創設せられたり。行政警察規則の發布及び羅卒を巡查と改稱せられたるも池田署開廳後に屬す。後警察出張所を池田警察署

と改稱せられ大正四年現廳舎を新築す。現在署長は從七位勳八等木島忠義氏にして警部補田中伊八氏以下二十八名の署員あり。巡查部長は田中供吉、織田與吉郎、原仙吉、宮城太郎、井口澤平の五氏なり。池田町を始め細河村、止々呂美村、秦野村、北豊島村、箕面村、萱野村の一町六箇村を其の管轄とし巡查部長派出所一、派出所二、駐在所八を有す。本年十月より社會奉仕の一端として雨天には雨傘、夜間には提灯の無料貸與をなし管内各駐在、派出所に之れを備え付けて一般民衆の便宜を圖り頗る好成績を収めつゝあり。大正九年度に於ける刑事事故の被害數及び檢舉數を掲ぐれば左の如し。

被害數	檢舉數	殺人犯九、一年以上の禁錮若しくは懲役に當るもの、窃盜犯五〇、詐欺取財
窃盜	二、三三件	三、〇一九、四八〇
詐欺	二、三三件	三、〇一九、四八〇
脅喝	三、二二〇	二、六〇七、九二〇
横領	三、二二〇	二、六〇七、九二〇

池田郵便局 明治四年十二月五日本町に創設され其後局長の更迭と共に林口町、西之口町、林口町、仲之町と轉々移動し大正七年十二月二十六日現在の本町に置く。歴代局長は乾治兵衛、武田半兵衛、中尾太兵衛、中尾泰次郎、西田常太郎、北村房吉氏にして現任は北村貞藏氏なり本局に於ける事務開始當時は集配郵便のみを取扱ひ居たるが、其の後明治十二年十二月内國爲替、十四年五月郵便貯金、二十五年七月外國爲替、廿六年二月和歐兩文電信、同年七月小包郵

便、三十五年三月電話開通、四十一年十二月電話交換を各取扱ふに至れり。現在は三木局長代

理を始め事務員、集配人十數名に交換手五名を有し、市内郵便集配は一日一區三回、小包配達
一日一回、市内に郵便切手及び、収入印紙賣捌所二十五軒あり。市内とは池田町内のみならず
接續町村をも含む

通常郵便 (大正九年度調)

引 市内	一、三四一、八〇九	前期中書留 格表記	一三、五〇〇	配 市内	一、三三二、五八	前期中書留 格表記	一四、三九二
受 總數	一、五四二、〇四四	集金郵便	五、八四〇	達 總數	一、五四二、四	集金郵便	二、六五七

受 引 總數	二四、三九一	前期中書留 價格表記	五、四〇〇
--------	--------	---------------	-------

電 報

内國

發信通數

二四、二七

達 配 總數

三三、四五

前期中書留
價格表記

六、一六

電 話

内國

發信通數

二四、二七

達 配 總數

三三、四五

前期中書留
價格表記

六、一六

電 話

外國

發信通數

二四、二七

達 配 總數

三三、四五

前期中書留
價格表記

六、一六

電 話

外國

發信通數

二四、二七

達 配 總數

三三、四五

前期中書留
價格表記

六、一六

通話加入者相互間數 八四、八五
電話加入者數 一四、六六
非加入者數 一四、六六

加入者數 三三、三三
非加入者數 三三、三三

加入者數 三三、三三
非加入者數 三三、三三

郵便切手賣捌數

五、八五〇〇〇

收入印紙賣捌數

四、三三〇〇〇

大阪區裁判所池田出張所

田中町に在り。明治二十三年十一月一日池田區裁判所設置されし
も其の後三十五年廢止となり、是れと同時に現在の出張所が置かれ登記事務一般を取扱ふ。池
田町、止々呂美村、細河村、秦野村、箕面村、萱野村、北豐島村を其の管轄とし主任は鈴木俊
雄氏なり。九年度の取扱ひ事件は二千二百二十二件、筆數六千六百四十八數に達す。今八、九
兩年度に於ける土地建物賣買抵當質件數及び金高の取調表を對比して見れば能く池田附近に於
ける世間の景況と土地建物の移動關係が分明し一種の興味を覺ゆべし。

土

地

建

物

土地建物合併

合計

件數 賣	一、〇五三
件數 買	一一一

三八

七二

一、一六三

金額 賣	一、〇六、〇七五、四
金額 買	九六、九六三

四〇、〇六四、六

七五、九三、七

一、三三、〇五三、六

件數 賣	六九〇
件數 買	一〇九

二五

六二

七七七

金額 賣	一、三三、九八、五
金額 買	八五、九二、八

二五、二四、八

一〇〇、〇六一、九

一、二五九、二四、三

第四編池田町勢第九章諸官衙

第十章

報 紙 界

一一三

流轉興亡の極まりなく旦にして夕を測り知られざるは報紙界の常なり由來池田の地は新聞雜誌の經營旺なる處として既に世間一般に周知され比較的言論の威力認承されざるにはあらざれども一面起伏興亡の番ならず時に舞文曲筆の徒ありて善良なる社會を害ひ健全ならんとする斯界新聞は明治新聞(月三回刊行)にして青山清三郎氏の主宰に係り經營十餘年、其の間有數の操觚者を出だしたる事あるも今は廢刊して無く現時の地方新聞として左記の二三を數ふべきが、近時益々大阪方面の大新聞の勢力波及するに及び往時の如く晏如たる能はずして壓倒されるの嫌ひあるは免れ能はざるものゝ如し。

太陽日報 大正三年一月の創立にして最初本紙は太陽新聞と號し貴族院議員子爵清岡長言氏を會長とする古墳史蹟研究會の機關紙として皇道の大本を宣揚し考古學界の爲めに盡し來たりたるも其の後間もなく本紙を普通新聞紙とし一方雜誌『皇道』を創刊して該研究會の機關誌に當てたるが、更に其の後に於いて雜誌『皇道』を廢し新紙に合併して現在の顯號に改め以て全力を地方文化の啓發に注ぐ事となり今日に及ぶ。現在にては北攝有數の印刷工場を完備し北は丹波

篠山及び福知山、南は攝陽尼崎並に西宮、東は吹田一帯に亘りて此の間多數の讀者を有し漸次社礎の健實を加え今や府下新聞紙中一二を爭ふ名實を具ふるに至れり。月十五回の隔日刊行にして本社は池田本町、社主は原田長治氏なり。

東陽新聞 大正十年四月創立、本社を池田室町に置き月八回刊行の新進の報紙たり。常に直言直筆を以て鳴り生氣潑潑、不正非行に對しては苟しくも假借する處なく所謂斬魔の劍、降魔の刀を揮つて肥羅剔抉し膺懲の鐵火を浴びせて能く其の天職に忠實なるものあり。創業日尙ほ淺きも社運逐日隆昌に越き攝北を地盤に遠く丹波水上郡に支局を置き着々活躍雄飛の域に進みつつあり。社長古賀淳資氏は學識淺からずして斯界に深き經驗を有し曾て啓世新聞、大日本青年等の雜誌を經營し居たる事あり、現在大阪毛斯倫會社刊行の雜誌大家庭の編輯顧問として令名聞ゆ同社の齋藤主幹亦よく古賀社長を補佐して才腕を調はれ能勢水上郡支局長共に同社の爲めに功勞淺からずと聞く。

北攝新聞 大正九年十一月東陽新聞社長古賀淳資氏と共に本紙を起して戮力經營し來たりしも中途事情ありて一時廢結し其の後十年五月現社長久下竹松氏獨立を以て本紙を再刊するに至れり。本社を伊丹町に置き當地方言論界一方の雄として着々成功の域に達しつつあり。久下社長は丹波水上の出身、性溫厚誠實にして氣慨あり常に社會公共の時代的弊贅を痛嘆し身を挺して矯革匡救に盡瘁せり。